

平成26年8月24日、水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会（会長：新潟市長）主催の「7.13水害10周年シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、「平成16年新潟・福島豪雨災害」から10年目を迎えるにあたり、当時の被害とその後の歩みを再認識し、災害から得た教訓を生かしていくことをテーマとし、約400名の方が参加されました。（防災・減災新潟プロジェクト2014の1つ「7.13水害10周年事業」の一連行事として実施）

映像による7.13水害の振り返りの後、片田 群馬大学大学院教授から、「災害の教訓を生かすということ」と題した基調講演が行われ、その後、パネルディスカッションでは、水害発生から10年間の取組を振り返った後、今後、必要な取り組みとして、「防災教育を中心とした将来世代への取り組みが必要である」など、パネリストから活発な議論が行われました。

参加者は、シンポジウムと合わせて行われた記録写真展や関係団体の展示ブースなども見学し、当時の水害を振り返ると共に、最近の日本各地での豪雨災害が起こっていることから、いつまたこの地でも同じような水害が発生しないか、そのための備えと心構えを新たにしていました。

■開催日時 平成26年8月24日(日) 13:00～15:45

■会場 新潟県三条市須頃一丁目17(燕三条地場産業振興センター)

■主催 水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会(会長:新潟市長)

■I部「7.13水害を振り返る」

■II部 基調講演「災害の教訓を生かすということ」片田 敏孝(群馬大学大学院 理工学府 教授)

■III部 パネルディスカッション「7.13水害後の自助・共助・公助の進歩と今後進めるべきこと」

コーディネーター:片田 敏孝(群馬大学大学院 教授)

パネリスト:篠田昭 新潟市長、國定勇人 三条市長、久住時男 見附市長、李 仁鉄 NPOにいがた災害ボランティアネットワーク事務局長、高橋猛 新潟県土木部長、瀬崎智之 信濃川下流河川事務所長

H16.7.13 五十嵐川破堤状況(三条市曲淵)



篠田 新潟市長の開会挨拶



野田 北陸地方整備局長の来賓挨拶



片田 群馬大学大学院教授の基調講演



パネルディスカッション



國定勇人三条市長の閉会挨拶



展示ブース



会場の様子